



に修築している。数人1室で、全国からの多くのボランティアが宿泊していた。

宮古市を視察したとH.Y名誉教授の無事をNYのS.N教授に知らせた。すぐ、“It is so sad what happened in Miyako City. The whole world watched the devastation unfold on Television. We have been in touch with Prof. Y. and we feel the pain of the people in Fukushima.”と返事が来た。

案内してくれた三陸鉄道勤務のA氏の説明では(彼の自宅も津波で破壊流出した)、宮古地区は過去の津波被災経験を生かして人的被害は少なかった。しかし、6月10日の時点で、宮古市での死者417人、行方不明者355人、避難者数2,423人、倒壊家屋数4,675棟と県災害対策本部から報告されていた。岩手医大、日赤、他県派遣の医療チームによる巡回診療は翌日3月12日から、保健師派遣、高齢者福祉関係者、介護職員等、県外応援者の派遣など、1週間以内に行動を開始している。3月28日には宮古病院は通常診療を再開したようだ。

宮古の診療所はがれきの山に埋もれていた。翌日早朝からボランティアの人々の邪魔にならないように、鉾ヶ崎地区、田老地区の防波堤、田老港、田老・グリーンピア仮設住宅を視察。田老グリーンピア宮

古の跡地に、仮設住宅を建設していた。

広々とした敷地の中に、仮設でなく将来を見据えた、一つのタウンの建設も可能である。ここに病院あるいは診療所、幼稚園、保育園を含めた教育施設や老人ホーム、介護福祉施設の設立も考えているとのこと。

陸中山田駅付近は魚介類の腐敗臭が強く、津軽石駅では流出した車両や駅付近の火災の跡など、今後の復興の困難さも見受けられた。しかし宮古市民の台所「魚菜市场」は活気あり頼もしかった。日曜ではあったが、途中、警察関係の遺体検死の車が仕事をし、道警もまだ電気の来ない地区の交通整理に携り、自衛隊の献身的な働きは、住民の感謝の声が大きかった。

鎌倉では、4月11日に鎌倉鶴岡八幡宮で、神道、仏教、キリスト教、各宗教界合同の慰霊追悼会が執り行なわれ、7月9日には鎌倉五山第一寺の建長寺で、すべての生きとし生けるものへの供養のための大施餓鬼会が開かれた。妙高院浅井師法話では、今、日本人には「足るを知る」という心構えが必要であると説教された。

視察したのは被災地の一部に過ぎないが、大震災で亡くなられた方々へのご冥福を祈り、また被災された方々へのお見舞いの心を込め、合掌。

## 北海道医師会サポートセンターのご利用について

◇情報広報部◇

北海道医師会サポートセンターでは、本会提供のメールアドレスに関するご相談だけでなく、パソコン操作やインターネット利用に関する質問対応も承っております。日頃のパソコン利用におけるちょっとした疑問点やトラブル対応の第一相談窓口として、お気軽にご利用ください。

### お問い合わせ例

パソコンをMacに変えたら使い方がよくわからない・・・ご利用方法をご案内  
 プロジェクターでパソコンの映像を映したい・・・ご利用方法をご案内  
 光電話ってどうしたら使えるの・・・光電話についてご案内、取次ぎも可能  
 エクセルの使い方がよくわからない・・・一般的な使い方であればご案内可能  
 サポートに来てほしい・・・駆けつけ業者を手配します(有料となります)

お問い合わせ先：北海道医師会サポートセンター（平日 10:00～12:00、13:00～17:00）

○TEL： 011-738-3401

○E-mail： support@hokkaido.med.or.jp